

学林舎情報

NO. 157

共創ネットワーク

●発行日：2015年8月22日（土）

〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3 TEL 06-4962-5876 FAX 06-4962-5877 e-mail info@gakurin.co.jp

発行：教材出版 学林舎

残暑お見舞い申し上げます

夏日がつついています、皆様いかがお過ごしでしょうか。

学林舎では、来年に向けて「成長する思考力GTシリーズ国語 文法特化」の制作にかかっています。

詳細につきましては、次回の学林舎情報でご案内させていただきます。

また、「高校英語救急演習」に関して、一部改訂(仮定法の追加)をおこない、別冊子を付ける予定です。

その他の教材に関しては、改訂の予定はございません。

今後とも学林舎教材のご活用よろしくお願い致します。

(有) 学林舎

取締役社長 北岡 響



成長する思考力GTシリーズ 中学受験教材としての活用

中学受験の基礎教材として、成長する思考力GTシリーズが使われている事例はあります。進学塾を中心に発行当時の1998年から現在（2015年）も利用されています。進学塾では、志望校にもよりますが、国語、算数とも5級を小学校5年生の3学期あたりまでには終了しています。中には5年生の1学期には、終了しているケースもあります。10～5級を通過することにより、小学生範囲の基礎・応用学習を身につけたこととなります。4～1級に関しては、受験ででてくるような問題を中心に構成されていますので、志望校対策と同時に進めていき、夏期などのまとまった時間が取れるときに学習する場合があります。関東のある進学塾さんでは、2～3級を繰り返し学習する場合があります。関西の方では難関校、灘、甲陽、六甲などを受験する子どもたちに対して、4～1級あたりを小学校5年生の3学期までに終了させ、6年生は志望校対策をおこなっている進学塾もあります。

ただ、成長する思考力GTシリーズのコンセプトはあくまでも子どもに「考える力」「考える機会」をあたえる教材＝素材と学林舎は考えています。ご質問をいただく中で、「成長する思考力GTシリーズを10～1級まで学習したら、難関校合格も大丈夫ですか?」「中学受験対策の教材として、成長する思考力GTシリーズを学習すれば十分ですか?」というお声をお聞きます。そういったお声に対して、学林舎では「成長する思考力GTシリーズは、中学受験対策教材ではありません。結果として、中学受験対策の教材のひとつとして使われています。」

教材は素材です。素材をどう使うかは、指導者、学習者である子どもたちによって効果は変わります。学林舎がひとつと言えることは15年以上もこの教材を使っている指導者、学習者の皆様がいるということは、教材として素材として、魅力あるものだと判断していただいている何よりの“証”なのです。この“証”を維持するだけではなく、様々な変化＝提案をしていくことにより、教材、素材として、成長する思考力GTシリーズは成長していくと考えています。（北岡）

英語教育の行く先 言語としての英語

兵 庫県の県立教育研修所（加東市）で兵庫県教育委員会主催の全て英語で活動をおこなう「ひょうご・グローバルリーダー育成キャンプ」の見学・取材をしました。科目ではない、言語としての英語指導がようやく公的機関でもはじまったのだと実感しました。言語としての英語に関しては、英会話ではなく、英会話より突っ込んだ、英語で考え、表現することを意味します。このキャンプでは、高校2年生の子どもたち100人が集まり、5-6人のグループに分けられ、ALT（外国語指導助手）がコーディネイトをしてテーマをグループで決定、思考、そして、テーマをまとめ表現する。これを**全て英語でおこなうこと**により、**英語で思考、表現することを体験、経験できるカリキュラム**になっています。子どもたちの反応は様々で英語で自由に表現する子どももいれば、考えながら、言葉を選びながら表現する子どももいました。参加した子どもたちの英語力は英検2級程度なので英語が得意な子どもたちといえます。

私がこのキャンプを見学、取材して思ったことは、**カリキュラム・指導計画があれば十分、キャンプという形ではなくても、通常の授業として取り組める**ということです。ただ、**全ての子どもたちがこのカリキュラムができるかと言えば、そうではありません。段階・ステップ・レベル分けは必要**です。大学や民間教育機関においては、こういった内容で指導することは、10年ほど前からおこなわれていました。ただ、**子どもの活動の主である“学校”という場所が科目としての英語を指導しつづけていましたので、温度差**はありました。しかし、今回、**教育委員会が主催でこういった英語キャンプをおこなったことは大きな前進**だと私は考えています。3月26～28日に「ひょうご・グローバルリーダー育成キャンプ」は同じ参加者、スタッフでキャンプをもう一度おこないます。私も3月におこなわれるキャンプに見学・取材させていただき、子どもたちの様子を見てみたいと思います。（北岡）

学習教育の行く先 企業の出前授業

企 業による出前授業がここ数年増えています。小学生、中学生、高校生、大学生を対象に下記のような**出前授業**をおこなっています。

【小学生対象】

- ・東罐興業「容器の役割について学ぼう」
- ・イオン「環境・社会貢献活動の学習」
- ・旭化成「命を守るために、できること」
- ・東京海上日動火災保険「みどりの授業」
- ・江崎グリコ「噛むって大切！噛むとどんないいことがあるかな？」
- ・NECキャピタルソリューション「わくわく子どもの池プロジェクト」

【中学生対象】

- ・SMBC日興証券「お金について考えてみよう」
- ・英会話イーオン「読売中高生新聞『ぶっちゃけ英会話』」
- ・NECネットエスアイ 南極くらぶ「南極を知ろう！見よう！さわろう！」
- ・三菱東京UFJ銀行「金融経済、銀行のしくみを学ぶ」

などなど

高校生・大学生に関しても、テーマは変わりますが企業の出前授業は年々、増えています。企業関係者に聞けば、企業価値を上げることはもちろん、企業が教育に携わることによって、子どもたちによりいっそう社会で営まれていることを身近に体験してもらうことが目的のひとつだと思います。子どもの視野を広げることによって、子どもは変わり、成長していきます。日本の場合、学校と家庭の往復で、学校という枠を卒業してはじめて、社会を知るケースが多いです。これからの**子どもたちにとって必要なのは、枠の中で生きる力ではなく、枠を超える力、枠を自分の力で創る力が必要**なのです。（北岡）

国語を 考えてみる

文/学林舎国語顧問 森本 秀俊

ああ、素晴らしき哉、日本語⑩

今年の夏は厳しいですね。「うだるような」暑さが毎日続いています。さて。この「うだる」という言葉ですが、「茹だる」と書き、「卵が茹だる」の「ゆだる」という言葉が音変化してできたものです。「暑さのために体がぐったりする」という意味を表します。今回は、夏の言葉を見ていきましょう。

まずは、暑さを少しでもやわらげてくれる、夏に吹く風を表す言葉です。「薫風」は「初夏に新緑の間を吹いてくる心地よい風」です。「薫風」を「風薫る」と言いかえるとやわらかい表現になります。「青嵐」は、「青々とした草木や野原の上を吹きわたってくる風」で、「薫風」よりもいくぶん強い風のことです。「青田風」は、まだ稲の穂が出ていない頃に、「青い田んぼの上を吹きわたる風」です。この風に沿って稲が揺れ、それが波のように伝わるのを「青田波」といいます。朝と夕方に、陸から吹く風と海から吹く風が入れかわる時、無風状態になることを「朝風」「夕風」と言います。この言葉を聞くと、私は空に漂うカモメの姿を思い浮かべます。

続けて、夏の美しい言葉をいろいろと見ていきましょう。

「打ち水」は、夏の暑さをしのぎ、涼を得るために、道路や庭に水をまくことです。実家の近くでは、昔、多くの家が打ち水をやっていたことを思い出します。おばちゃんたちがバケツの水をひしゃくでくみ、バシャッと道にぶちまけるのを見るだけでも、涼しげだったことを覚えています。

次に「空蝉」です。蝉の抜け殻を表す言葉ですね。この言葉は「うつしおみ」が「うつそみ」を経て音変化してできた言葉で、もともとは「この世に生きている人」「この世」という意味を表していました。源氏物語に「空蝉」という名の女性が登場します。この女性は、控え目で慎み深く、地味な女性でありながら、立ち振る舞いが優雅で、趣味が良い女性として描かれています。

次もまた蝉にかかわる言葉「蝉時雨」です。たくさんの蝉がいて、こちらの蝉が鳴きやんだと思うと、あちらの蝉が鳴き始める。あちらの蝉が鳴きやんだと思うと、またこちらの蝉が鳴き始める。この繰り返りで、蝉の鳴き声が、まるで時雨が降り続くようにやむことがない、ということで作られた言葉です。すごくセンスのあるネーミングだと思います。そういえば、何かの本でこんな話を讀んだことがあります。蝉がいないヨーロッパのある国の人が夏に日本を訪れました。町を歩くと蝉時雨が鳴り響いています。その人は木の下に立って、木を見上げながらこう言ったそうです。「音の鳴る木ですか。私の国にはありません。とてもめずらしいですね」その人の母国の夏は、きっと静かなんでしょう。

「草いきれ」という言葉があります。夏の強い日差しを受けて、草の茂みから立ち上がるムツとする熱気のことです。

草いきれ 鉄材錆びて 積まれけり 杉田久女

この句はいいですね。子どものころ、近所の空き地に行くと、よくこんな風景を見かけました。そして、積まれた鉄材に登って、飛び降りる。また、登り、「だあ」とか叫んで飛び降りる。ただそれだけのことで一時間くらいは遊べたような記憶があります。地面に降りたとき、体をむわあと草いきれが包み込む。日本の夏。少し泥臭い感じのする、たくましい夏だったような気がします。

ああ、素晴らしき哉、日本語。(つづく)

算数・数学から見える世界

文／学林舎算数・数学顧問 深見 和孝

今年度(2015年)から小学校の教科書の内容が変わり、中学校でも来年度(2016年)から使用される教科書について内容が変わります。といいましても、**学習項目が大きく変わるようなものではなく、数学の教科書に関していえば調整程度の小改訂にとどまります。**北岡さん(学林舎)から「中学校の数学教科書の変更点について書いてほしい」との要望があったのですが、残念ながら、これとって取り上げるようなネタもなく、どうしたものか、思案しています。

中学数学の教科書は、計7社の出版社から検定を通ったものが発行されています。数学の教科書だけで7種類もあると聞いて、多くの方が「そんなにたくさんあったの!」と思われるのではないのでしょうか。それだけ種類が多いのならば、それぞれに個性のあるものになっていそうなものですが、**学習項目は指導要領で定められます**ので、はっきり言ってどれも似たり寄ったりです。むしろ、**改訂されていくにつれ、どの出版社の教科書も似たような内容になってきているように思えます。**テレビ局がどこも似たような番組をつくりたがるような感じです。

さて、教科書が7種類あるといいましても、中学生が実際に使うのはそのうちの1つだけでして、**全国の中学生の多くが、「東京書籍」と「啓林館」という2社の教科書会社が発行しているもののどちらかを数学の授業で使っています。**そこで、今回は、この2つの教科書の違いについて書いてみようかと思えます。

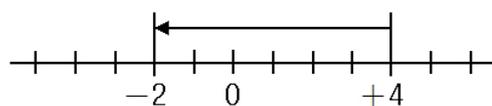
先ほど、どの教科書も似たような内容だと言いましたが、よ〜く読んでみると、違いがあることに気づきます。たとえば、数学では、 $2x+3$ のような式を「いちじしき」といいます。これを、東京書籍では「1次式」と書きますが、啓林館では「一次式」と書きます。どうでもいいことですか? 出版社にとっては大事な

ことなのです。

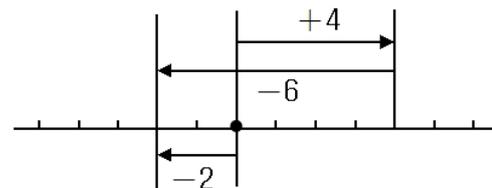
もっと大きな違いもあります。中学1年で習う「正負の数の加法」についてですが、次のように説明しています。

たとえば、 $(+4) + (-6) = -2$ の計算を図で表すと、

・啓林館では…



・東京書籍では…



啓林館方式では、「+4より-6大きい数(6小さい数)」を考えて、「数直線上の+4の点から左へ6進んだ点は-2」だから、答えは-2となります。東京書籍方式では、「ある点が直線上を、最初は右へ4進み、続けて左へ6進んで、その結果、左へ2進む」ことから、答えは-2となります。

わかりにくいでしょうか? 啓林館では、「+4」を数直線上の点とみて「-6」を点が進む方向(-)と距離(6)とみているのに対し、東京書籍では、「+4」と「-6」のどちらもある点移動する方向と距離とみえています。ですから、東京書籍の図には「0」を表す点は必要ありませんし、答えの「-2」は「左へ2進むこと」を表しています。私的には、東京書籍の方がしっくりとくるのですが、みなさんはどうでしょうか? どちらも同じようなものじゃないかと言われればそれまでなのですが、ちょっとした違いのなかに各教科書の主張があるわけです。(つづく)

クロスロード Crossroad

第48回 文／吉田 良治

夏のスポーツ事情

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、その期間は日本で最も暑い時期の7月下旬から8月上旬に当たります。日本体育協会によれば、気温35度の猛暑日は原則運動を禁止、31度以上でも厳重警戒で、激しい運動は避けるべきと指針を出しています。今年7月下旬から8月中旬まで日本各地で猛暑日が続く、5年後のこの時期はさらに気温上昇が懸念されています。

日本では夏の時期は、高校野球をはじめ高校総体（インターハイ）など、夏の競技大会も盛んでしたが、近年温暖化で競技者はもちろんのこと、観戦する側にも熱中症などの健康被害が多発しています。高校生よりも体力のあるプロ野球選手（1軍のみ）ですら、この時期はナイターかデーゲームでもドーム球場（空調設備のある）に限られていて、昼の炎天下での競技実施はありません。スポーツ活動を行う上でも、野外なら比較的涼しい午前中の早い時間帯か夕方の時間帯、また空調設備のある競技施設を使用するなど、競技者や観戦者などへの健康面の配慮が重要となります。

また、夏は秋に向けたスポーツの強化時期でもあり、厳しいトレーニングを経て一流選手になるとされてきました。練習などのスポーツ強化の場においても、練習時間帯やペース配分を含め、綿密な計画を立てることが求められます。特に合宿など集中的に行う場合は、一日中激しい練習をすることは、疲労を蓄積することによって、パフォーマンスの低下を招き、また疲労の回復が遅れば、熱中症を引き起こすもととなるばかりか、疲労が怪我を誘発する場合があります。中には選手生命に繋がる重傷、場合によっては命にかかわるケースもありますので、指導者には常に選手のベストコンディションを整え

ることを最優先に考えることが重要です。このことは体罰問題と同様、指導者の練習に対する意識改革が求められます。

私の指導者としての経験を少し紹介すると、アメリカンフットボールの夏合宿では朝8時30分～10時、午後も15時～17時30分と、気温が高い時間をさけるようにしていました。特に午前中の練習はできる限り早く始め、中身もできる限り体力を消耗しないような工夫が必要です。昼に長い休息をとることで、体力の回復するよう配慮していました。また夜も9時過ぎには就寝し朝早く起きて（5時起床）、早朝にミーティングをするようにしていました。これにより選手は疲労を極力蓄積せず体力を維持し、練習内容の理解度を高めることに重きを置きました。アメリカの大学では熱中症の防止を目的に、キャンプ（強化合宿）中は2日続けて一日2回練習を禁止しているので、日本でも合宿の一日2回練習では、どちらか一方の練習で体力を消耗しないような工夫が必要です。

夏のスポーツ競技、例えば高校野球も選手や観客の健康を考えるなら、ベストはドーム球場への開催施設の変更ですが、甲子園球場開催の伝統を守るなら、試合の時間帯（昼の時間帯を避ける）や、連戦が続く後半の試合（3回戦以降）は、試合間隔をあける（毎試合中1～2日くらい）ことも検討すべきでしょう。

大学生においては新卒採用時期が繰り下げとなって、夏休みに就職活動が集中することもあり、通常主力の4年生が練習や試合を抜けることもあります。夏休み中のスポーツ活動も思いきって休止をするくらいの変革が必要なのかもしれません。（つづく）

吉田良治さんプロフィール

1962年生まれ。1998年にワシントン大学へアメリカンフットボールコーチ留学。2000年リーグ制覇、2001年ローズボウルに出場し、ローズボウル制覇に貢献。国家レベルのリーダーシップ教育に貢献した、ランブライト元ワシントン大学ヘッドコーチよりリーダーシップ教育を学ぶ。

全米の大学で人格形成プログラム普及に貢献した、ライス元ジョージア工科大学体育局長よりライフスキル教育を学ぶ。

吉田良治さんBlog
<http://ameblo.jp/outside-the-box/>